

令和6年度



川口市立芝中学校

第2学年

各教科シラバス

(学習目標・学習計画・学習内容・評価規準等)

学習案内（シラバス）とは

学習案内（シラバス）とは、各教科の学習の目標、学習の内容、評価の観点と方法などについてまとめたものです。生徒のみなさんには、より効果的に学習をすすめるために、また、保護者の方々には、本校の教育活動のより深い理解に役立つものです。

学習指導要領の基本的なねらいとは

令和3年度から全面実施となっている中学校学習指導要領では、子供たち一人一人が、社会に主体的に向き合い関わり合い、その過程を通して、自らの可能性を發揮し、あらゆる他者を価値ある存在として認め、共に協働できるなど、幸福な人生の作り手及びよりよい社会の作り手となっていけるようにすることを重要視しています。

学習指導要領が目指す評価とは

評価は、子どもたちに、学習指導要領が目指す力をどの程度身に付けているかという学習状況を示すとともに、子どもたちのよさや可能性を引き出し、学習意欲を高めさせるためのものです。

※観点別評価の評価内容

①知識・技能

⇒ 各教科等で、学習する過程で身に付けた知識や技能の習得状況について評価を行います。また、それらを既に身に付けている知識や技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に、概念として理解したり技能を習得したりしているかについて評価を行います。

②思考・判断・表現

⇒ 各教科等の知識や技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を身に付けているかを評価します。

③主体的に学習に取り組む態度

⇒ 知識や技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みの中で、自ら学習を調整しようとしているかを評価します。

* 「粘り強い取り組み」とは、その取り組みが、教科の達成すべき目標に向かっている姿を意味しています。

* 「学習を調整する」とは、課題解決に向けた学びの方向を見通すこと、学びの方向を必要に応じて修正すること、学習成果として何が大切か否かを振り返ること、理解・表現した内容が妥当か吟味すること、他者と協働して最善解や納得解に向かうこと、課題解決に向けて自らを問い直し、問い続けること、などを意味しています。

*学習指導要領とは・・・

！ 全国のどこで教育を受けても、一定の水準の教育が受けられるようにするため、それぞ
！ れの学校のカリキュラムを編成する上での規準となるものが、学習指導要領です。

通知表の見方について

本校では、生徒が学習指導要領に示す目標に照らして、その実現状況を見る評価（目標に準拠した評価）を充実させるために、次のように評価・評定を行います。

1 教科の評価・評定について

(1) 観点別評価

- ① 学習単元・内容ごとにABCの3段階で絶対評価をします。
- ② 評価規準
『A』…十分に満足できると判断されるもの
『B』…おおむね満足できると判断されるもの
『C』…努力を要すると判断されるもの

(2) 評定

- ① 学期ごと及び学年で5段階評定をします。
- ② 評価規準
『5』…十分満足できると判断されるもののうち、特に高い程度のもの
『4』…十分満足できると判断されるもの
『3』…おおむね満足できると判断されるもの
『2』…努力を要すると判断されるもの
『1』…一層努力を要すると判断されるもの

(3) 評価の素材

ペーパーテスト（定期テスト、単元テスト、小テスト）、レポート、ノート、ワークシート、ワーク、実験、実技テスト、作品、授業の観察（態度、挙手、発言、発表、忘れ物、係の仕事、片付け等）、話し合い活動（グループでの協議、スピーチ、ディベート、ディスカッション）、提出物、生徒の自己評価や相互評価などで評価します。



2 総合的な学習の時間の評価・評定

(1) 学習活動

課題の設定、調査活動、体験活動、発表活動等

(2) 評価の観点

- ①明確な学習のねらいを持っている。
- ②学習を通して興味関心を一層深めることができた。
- ③学習を通して自分なりの考えを持つことができた。

(3) 評価…文章表記による評価をします。

芝中学校の重点目標

全国学力学習状況調査・埼玉県学力学習状況調査の分析を受け、本校では今年度、下記の項目に重点的に取り組みます。

- ① 授業形態を工夫し、話を聞き発表する力を高める。特に、自分の考えをしっかりと自分の言葉で伝えられる表現力や、周囲との良好な関係を構築していくためのコミュニケーション能力の向上を図る。
- ② 教科の系統性(=学習内容が何につながり、どのようなことに役立つか。)を明確にし、学習意欲や興味関心を高める。
各教科の「3 身に付けさせたい力」の欄に、授業で実施していく具体的な取り組みを記載しました。(★の部分)お読みください。

国語科 第2学年 シラバス

1 教科の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

(2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。

(3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

2 学習のアドバイス

- ① 見通しをもって学習に取り組み、授業の最後に振り返りをして何ができたようになったか確かめよう。
- ② 授業では積極的に発言しよう。また、友達の発言をしっかり聞いて意見を持とう。
- ③ 提出物などの課題は期限を守って提出しよう。
- ④ ノートは、板書を写すだけでなく、自分が考えたことなども記録して、工夫して書いていこう。
- ⑤ 幅広い種類から選んで、進んで読書しよう。

3 身に付けさせたい力

- ① 国語を適切に表現する力
 - ② 国語を正確に理解する力
 - ③ 国語を伝え合う力
- ★話を聞き発表する力を育てる取り組み
⇒ペアや班での話し合い活動を積極的に行う

4 評価の観点、評価規準と評価方法

	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
評価規準	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値を認識しようとしているとともに、読書を通して自己を向上させ、言葉を適切に使おうとしている。
評価方法	(1)言葉の特徴や使い方に関する事項 (2)情報の扱い方に関する事項 (3)我が国の言語文化に関する事項 * (1)～(3)を評価する方法 ○授業時のワークシート ○授業時の発言内容 ○漢字の小テスト ○硬筆・毛筆の書写 ○定期テスト ○提出物	A 話すこと・聞くこと B 書くこと C 読むこと * A～Cを評価する方法 ○授業時の発言内容 ○授業時のワークシート ○ノートの記述内容 ○課題作文の記述内容 ○教科書等の音読 ○定期テスト ○提出物	①・②の観点にある活動を粘り強い取り組みをもって行おうとする側面と、自らの学習を調整しようという側面 * 評価する方法 ○授業中の活動の観察 ○授業の振り返りシート（毎時の学びの確認） ○ワークシートの取り組み方 ○提出課題の取り組み内容 ○グループワーク、話し合い等の他者との関わりの中で の取り組み方

5 授業計画

指導目標	単元名	学習内容	評価の観点
文章全体と部分との関係に注目をし、登場人物の設定などなることを捉え、(思・判・表)	アイスプラネット	○ 1年間の学習の見直しをもつ。 ○ 作品の設定を捉え、登場人物の人物像や心情を読み取る。	① 抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。
			② 「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定のしかたなどを捉えている。
			③ 積極的に登場人物の設定のしかたなどを捉え、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。
意見と根拠、情報と情報との関係が理解できる。(知・技)	〔聞く〕問いを立てながら聞く	○ 意見と根拠を整理し、疑問に思うことや確認したいことを考えながら聞く。	① 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。
			② 「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討している。
			③ 進んで論理の展開などに注意して聞き、今までの学習を生かして疑問点や確認したい点を考えようとしている。
文章を讀んでとこを結ぶ、自分の考えを深めたりすることができる。(思・判・表)	枕草子	○ 現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知る。 ○ 「枕草子」の形を借りて、自分ならではの季節感を表す文章を400字程度で書く	① 現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。
			② 「読むこと」において、文章を讀んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。
			③ 進んで文章を讀んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、学習課題に沿って自分ならではの季節感を表す文章を書くようとしている。
情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し、(知・技)	情報整理のレッスン 思考の視覚化	○ 教材文を読み、情報を整理し、視覚的に表す方法を理解する。	① 情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。
			②
			③ 学習課題に沿って、積極的に情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使おうとしている。
第1学年までに学習した常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を、(知・判・表)	漢字1 熟語の構成 漢字に親しもう1	○ 教材文を読み、熟語の構成の種類について理解する。 ○ 練習問題に取り組む。	① 第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を讀んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。
			②

<p>字配当表に 示されてい る漢字や文 章の中で使 うことができる。 (知・技)</p>			③	<p>学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。</p>
<p>文章全体と 部分との注 意点を示し ながら、例 示と関係さ せること。 (思・判・表)</p>	<p>クマゼミ増加 の原因を探る</p>	<p>○話や文章の構成や展開について理解を深める。 ○文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係などを捉える</p>	①	<p>話や文章の構成や展開について理解を深めている。</p>
<p>意見と根拠、 具体情報と抽 象情報との関 係を理解でき る。 (知・技)</p>	<p>思考のレッ スン 具体と抽象 魅力的な提 案をしよう</p>	<p>○教材文を読み、具体と抽象の概念を理解する。 ○資料や機器を用いるなどして、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫する。</p>	①	<p>意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。</p>
<p>自分の立場や 考えを明確に するよう注意 しながら、話 の構成を工夫 できる。 (思・判・表)</p>	<p>魅力的な提 案をしよう 資料を示し てプレゼン テーション をする</p>	<p>○提案内容を決めて、情報を集める。 ○効果的な話の構成を考える。 ○プレゼンテーションをする。</p>	①	<p>相手が自ら動きたいと思えるような言葉や表現を用いてプレゼンテーションをしている。</p>
<p>第1学年まで に学習した常 用漢字のうち 350字程度か ら450字程度 までの漢字が 読める。また、 学年別漢字配 当表に示され ている漢字を 書き、文や文 章の中で使 うことができる。 (知・技)</p>	<p>漢字に親し もう2</p>	<p>○新出漢字を確認する。 ○練習問題に取り組む。</p>	①	<p>第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。</p>
			②	
			③	<p>学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。</p>

<p>単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応関係などについて理解することができる。(知・技)</p>	<p>文法への扉1 単語をどう分ける？</p>	<p>○単語が幾つかの観点で分類されることを確かめ、そのうち「自立語」について学ぶことを理解する。 ○「自立語」を読み、自立語の各品詞の性質などについて理解し、練習問題に取り組み、理解の程度を確かめる。</p>	①	単語の活用，助詞や助動詞などの働き，文の成分の順序や照応など文の構成について理解している。
			②	
			③	今までの学習を生かして，積極的に自立語について理解を深めようとしている。
<p>目的の数値化や整理し得る適切な解釈が判</p>	<p>メディアを比べよう メディアの特徴を生かして情報を集めよう</p>	<p>○メディアを比べて，特徴を理解する。 ○目的や状況に応じたメディアの選び方を考える。 ○情報の受け取る時の留意点を考える。</p>	①	情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。
			②	「読むこと」において，目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て，内容を解釈している。
			③	粘り強く観点を明確にして文章を比較し，学習課題に沿って目的や状況に応じたメディアの選び方を理解しようとしている。
<p>抽象的な概念を量を増やすに，文章の中で通して，語彙を豊かにできる。(知・技) 観点を明確に比較し，短歌の表現効果や読みやすさなどを意識して読むことができる。(思・判・表)</p>	<p>短歌に親しむ 短歌を味わう [書く]短歌を作る</p>	<p>○「短歌に親しむ」を通読し，短歌を朗読する。 ○短歌の特徴についてまとめる。 ○「短歌を味わう」を読み，内容や表現のしかたについて感じたことを話し合う。 ○目にした情景，心に残る出来事や感動したことなど，題材を探して短歌を作る。</p>	①	情景などを表す語句に着目して作品を読み深めている。また，情景や心情が生き生きと伝わる言葉を選んで短歌を創作している。
			②	複数の短歌を比較し，言葉の選び方や順序にどのような特徴や効果があるかを考えている。また，自分の思いが伝わるように，学習した短歌の形式や表現の工夫を参考にして短歌を作っている。
			③	進んで短歌の構成や表現の効果について考え，学習の見通しをもって短歌を創作しようとしている。
<p>本や文章などは，文章の構成や表現の効果を意識して読むことができる。(知・技)</p>	<p>言葉の力</p>	<p>○文章を要約して，内容を捉える。 ○筆者の考え方について話し合う。</p>	①	言葉に対する筆者の考え方を捉え，本や文章には，筆者の考え方が書かれていることや，それに触れることで自分の考えを広げたり深めたりできることを理解している。
			②	言葉に対する筆者の考え方について自分の考えをもち，話し合っている。
			③	進んで文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け，今までの学習を生かして考えたことを伝え合おうとしている。

<p>抽象的な概念を量も対義語・多義語に表す。類義語・対義語・多義語の語意を磨き、語彙を豊かにする。 (知・技)</p>	<p>言葉 1 類義語・対義語・多義語</p>	<p>○導入の課題に取り組み、言葉どうしの関係性について興味をもつ。 ○教材文を読み、類義語・対義語・多義語について理解する。 ○例を基にして、それぞれの語がどのような関係にあるのかを考える。</p>	①	抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。
			②	
			③	今までの学習を生かして、積極的に類義語と対義語、多義的な意味を表す語句などについて理解しようとしている。
<p>抽象的な概念を量も対義語・多義語に表す。類義語・対義語・多義語の語意を磨き、語彙を豊かにする。 (知・技)</p>	<p>言葉を比べようもつと「伝える」表現を目ざして</p>	<p>○言葉を分類して、類義語を集める。 ○類義語を比較し、わかったことを話し合う。 ○「対義語を考える」に取り組む。</p>	①	抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。
			②	
			③	今までの学習を生かして、積極的に抽象的な概念を表す語句の量を増し、語感を磨こうとしている。
<p>文章などさまざまな場書か自分たすかき。 (知・技)</p>	<p>読書を楽しむ</p>	<p>○「本の紹介合戦」, 「読書ポスター」, 「本のリスト」の中から、夏休みに行く活動を選ぶ。 ○活動の内容に沿って、見通しを立てる。 ○グループごとに活動を行い、感想を発表し合う。</p>	①	本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。
			②	
			③	本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを進んで知り、今までの学習を生かして、本の魅力や感想を共有しようとしている。
<p>文章などさまざまな場書か自分たすかき。 (知・技)</p>	<p>翻訳作品を読み比べよう星の王子さま読書コラム「わからない」は人生の宝物読書案内本の世界を広げよう</p>	<p>○二人の翻訳者による「星の王子さま」を読み比べ、翻訳の違いによる作品の印象の違いについて考え、発表し合う。 ○「星の王子さま」や読書コラムを読み、「翻訳」の意味や、翻訳作品・外国文学のおもしろさについて理解する。 ○「本の世界を広げよう」を参考に、今後読みたい本を考える。</p>	①	翻訳の違いによって作品の印象が異なることを知り、他の翻訳作品を楽しもうとしている。
			②	二人の翻訳者による「星の王子さま」を比較し、表現の違いによる作品の印象の違いについて発表している。
			③	進んで表現の効果について考え、学習課題に沿って二つの翻訳を比べて感じたことを発表しようとしている。

登場人物の言動について、内容を積み重ねていく。(思・判・表)	盆土産	<ul style="list-style-type: none"> ○ 作品の構成を捉える。 ○ 登場人物の言動や様子を描写した表現から読み取れる、人柄や心情について考える。 ○ 具体的な場面や描写を基に作品の印象や特徴を伝え合う。 	① 登場人物の言動や情景を表す語句に着目し、それらが作品に与える印象を述べている。
			② 登場人物の言動から人柄や心情を読み取り、それらが話の展開や作品の印象にどう関わるかを捉えている。
			③ 粘り強く登場人物の言動の意味について考え、学習課題に沿って作品の印象を伝え合おうとしている。
観点を明確にし、文章の構成や表現の効果を考える。(思・判・表)	字のない葉書	<ul style="list-style-type: none"> ○ 二つの思い出の内容を整理し、筆者がこの随筆を書いた時点を、叙述を基に考える。 ○ 表現に着目して、登場人物の人柄や心情について読み取る。 ○ 父親に対する「私」の思い出について考える。 	① 表現に着目して人柄や心情を読み取り、それを生かして他の随筆を読んでいる。
			② 前半部分と後半部分の人柄や心情の描かれ方を比較し、表現の効果について考えている。
			③ 進んで表現の効果について考え、今までの学習を生かして考えたことを伝え合おうとしている。
論理の展開に注意し、聞き取りのしなやかさを考える。(思・判・表)	聞き上手になろう 質問で思いや考えを引き出す	<ul style="list-style-type: none"> ○ インタビューの準備をする。 ○ 教科書の例を参考に、思いや考えを引き出すためにどのように質問したらよいかを考えてインタビューを行う。 	① どのように質問をすると、相手がさらに話したくなるかを考えている。
			② 話の要点や全体像を考えながら聞き、話を広げたり深めたりする質問をしている。
			③ 粘り強く論理の展開に注意して聞き、今までの学習を生かして思いや考えを引き出す質問をしようとしている。
根拠を適切に説明し、具体的な効果描写の工夫を考える。(思・判・表)	表現を工夫して書こう 手紙や電子メールを書く	<ul style="list-style-type: none"> ○ 手紙と電子メールを比較し、活用場面を考える。 ○ 伝えたい内容を決め、通信手段を選ぶ。 ○ 手紙や電子メールを書く。 	① 相手や目的に応じて、敬語を適切に使って通信文を書いている。
			② 自分の思いや考えが伝わるように、具体例を加えたり、表現の工夫をしたりして通信文を書いている。
			③ 積極的に自分の考えが伝わる文章になるように工夫し、学習課題に沿って通信手段を選び、通信文を書こうとしている。
読み手の立場に立って、効果的な文章を整える。(思・判・表)	[推敲]表現の効果を考える	<ul style="list-style-type: none"> ○ 木本さんの手紙の下書きを読み、適切な文字や表記に書き改める。 ○ ……線部⑦⑧について、より効果的な表現を考える。 	①
			② 読み手の立場に立って手紙を推敲し、気持ちがいよりの伝わるような表現に書き改めている。
			③ 粘り強く文章を整え、今までの学習を生かして手紙を推敲しようとしている。

敬語の働きについて、話の中で使うことができる。(知・技)	言葉 2 敬語	○導入の例文を読み、敬語の使い方について考える。 ○教材文を読み、敬語の働きや種類について理解する。	① 敬語を使う生活場面を想定し、敬語の働きについて理解を深めている。
			②
			③ 今までの学習を生かして、積極的に敬語の働きについて理解しようとしている。
抽象的な概念を増すにも、対義語や同義語の対比を表現し、話を通して、語感を豊かにすることができる。(知・技)	漢字 2 同じ訓・同じ音をもつ漢字漢字に親しもう 3	○教材文を読み、同じ訓をもつ漢字の使い分けについて理解する。 ○教材文を読み、同じ読みで意味の異なる言葉(同音異義語)の使い分けについて理解する。 ○練習問題と「漢字に親しもう 3」に取り組む。	① 抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。
			②
			③ 学習課題に沿って、積極的に同音異義語を理解し、漢字を読んだり書いたりしようとしている。
文章の構成や論理の展開について考えることができる。(思・判・表)	モアイは語る 一地球の未来	○文章の構成に着目し、内容を捉える。 ○論理の展開を吟味する。 ○筆者の主張に対する考えを文章にまとめる。	① 筆者の意見(主張)がどのような根拠によって支えられているかを理解し、その根拠が適切かを吟味している。
			② 文章全体の構成を捉え、意見と根拠の結び付きや論の進め方を吟味している。
			③ 粘り強く論理の展開について考え、学習の見通しをもって筆者の主張に対する自分の考えを文章にまとめようとしている。
意見と根拠、具体情報との関係について理解することができる。(知・技)	思考のレッスン 2 根拠の吟味	○教材文を読み、根拠を吟味する方法を理解する。 ○問題 1, 2 に取り組む。	① 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。
			②
			③ 今までの学習を生かして、積極的に意見と根拠の関係について理解しようとしている。
根拠の適切さを考えるための適切な根拠を選んでいる。	根拠の適切さを考えて書く 意見文を書く	○課題を決め、分析する。 ○賛成・反対の立場を決め、意見を支える根拠を考える。 ○反論を想定して、構成を考える。 ○意見文にまとめ、意見文を友達と読み合う。	① 自分の意見を支えるための適切な根拠を選んでいる。
			② 根拠となる事実を具体的に示したり、想定される反論に対する意見を示したりしている。
			③ 粘り強く根拠の適切さを考え、学習の見通しをもって意見文を書くようとしている。

第1学年までに学習した常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を認むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技)	漢字に親しもう4	○新出漢字を確認する。 ○練習問題に取り組む。	① 第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。
			②
			③ 学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
互いの立場や考えを尊重し、結論をまとめることができる。(思・判・表)	[討論]異なる立場から考える	○テーマに沿って集められた①～⑧の事実を読む。 ○賛成・反対それぞれの立場の人が、①～⑧を基にどんな意見を述べるのかを考える。 ○同じ観点でも、根拠とする情報により異なる意見になり得ることを理解する。	① 賛成・反対それぞれの立場の人が、根拠となる①～⑧の事実から、どんな意見を述べるのかを考えている。
			② 同じ情報を基にしたたり、同じ観点で考えたりしても、立場によって異なる意見になり得ることに気づいている。
			③ 進んで意見と根拠の関係について理解し、今までの学習を生かして異なる立場の人の意見を想定しようとしている。
互いの立場や考えを尊重し、結論をまとめることができる。(思・判・表)	立場を尊重して話し合おう 討論で多角的に検討する	○地域や社会で話題になっていることの中から、討論したいテーマを探す。 ○自分の立場を決め、意見と根拠をまとめる。 ○グループで討論する。 ○討論を振り返る。	① 説得力のある根拠と共に、意見をまとめている。
			② 地域や社会で話題になっていることの中からテーマを決め、異なる立場の人の考えを予想しながら考えをまとめている。
			③ 進んで互いの立場や考えを尊重し、学習の見通しをもって討論しようとしている。
詩の構成や表現の効果を考えることができる。(思・判・表)	音読を楽しもう 月夜の浜辺	○詩を声に出して読む。 ○反復表現や対句表現、反語表現に着目し、詩の情景や作者の心情を想像する。 ○七音の繰り返しのリズムや反復の効果を味わい、情景や心情を想像しながら読む。	① 詩の中の語句に着目し、詩全体の世界を豊かに想像している。
			② 詩の中の反復表現、対句表現、反語表現に着目し、その効果を考えている。
			③ 進んで表現の効果について考え、今までの学習を生かして詩を朗読しようとしている。
作品の特徴を生かして読み、古典の世界に親しむことができる。(知・技) 現代語訳や語掛など作品を読む	源氏と平家 音読を楽しもう 平家物語	○「源氏と平家」の資料を読み、「平家物語」の主要な人物や主な戦いについて知る。 ○「平家物語」の概要と文章の特徴を知る。 ○冒頭部分を音読し、独特の調子とリズム、言葉の響きを味わう。	① 漢語を交えた独特の調子とリズムを捉えて朗読している。
			②

<p>して、古典に表れたものを見方を知ることができる。(知・技)</p>		<p>○作品を貫く「無常観」と重ねて冒頭部分を朗読し、暗唱する。</p>	<p>③ 進んで古典に表れたものの見方や考え方を知り、学習課題に沿って朗読しようとしている。</p>
<p>現代語訳や語注などにより、作品を通じて表れたものを見方を知ることができる。(知・技)</p>	<p>扇の的 —「平家物語」から</p>	<p>○「平家物語」の冒頭部分と「扇の的」を繰り返し朗読する。 ○登場人物の言動から、心情を考える。 ○登場人物たちの言動から読み取ったものの見方や考え方について、自分の考えを述べる。</p>	<p>① 古典の文章独特の調子やリズムを意識して朗読している。 ② 「読むこと」において、登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。 ③ 進んで登場人物の言動の意味について考え、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。</p>
<p>現代語訳や語注などにより、作品を通じて表れたものを見方を知ることができる。(知・技)</p>	<p>仁和寺にある法師 —「徒然草」から</p>	<p>○「徒然草」の冒頭部分と「仁和寺にある法師」の原文を朗読する。 ○法師の勘違いについて、作者がどのように捉えているかを原文から考える。 ○作者のものの見方や考え方について、感じたことをまとめる。</p>	<p>① 古典の文章独特の調子やリズムを意識して朗読している。 ② 法師と同じような経験がないかを踏まえて、考えたことを話し合っている。 ③ 積極的に考えたことを知識や経験と結び付け、学習の見通しをもって登場人物について論じる文章を書こうとしている。</p>
<p>観点を明確に比較し、漢詩の構成や表現の効果を考える。(思・判・表)</p>	<p>漢詩の風景</p>	<p>○漢詩の特徴を生かして朗読する。 ○三編の漢詩に歌われている季節、情景、作者の心情を捉える。 ○それぞれの漢詩から、どんな情景や心情を読み取ったか、話し合う。</p>	<p>① 漢文特有の言葉遣いや調子を意識して朗読している。 ② 「読むこと」において、観点を明確にして漢詩を比較するなどし、漢詩の構成や表現の効果について考えている。 ③ 進んで作品の特徴を生かして朗読し、学習課題に沿って好きな漢詩を選び、その理由を述べようとしている。</p>
<p>意見と根拠、具体情報と抽象情報との関係がわかる。(知・技)</p>	<p>君は「最後の晩餐」を知っているか 「最後の晩餐」の新しさ</p>	<p>○全文を通読する。 ○「最後の晩餐」(P173, 174)の図版と本文を結び付けて読み、「解剖学」「遠近法」「明暗法」が使われているところを理解する。 ○観点を決めて「君は『最後の晩餐』を知っているか」と「『最後の晩餐』の新しさ」を比較し、それぞれの特徴や共通点・相違点を確認する。</p>	<p>① 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。 ② 二つの文章に書かれていることを比較したり、関係づけたりしながら、それぞれの文章が書かれた目的や意図を考えている。 ③ 粘り強く観点を明確にして文章を比較し、今までの学習を生かして考えたことを文章にまとめようとしている。</p>
<p>第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の</p>	<p>漢字に親しもう5</p>	<p>○新出漢字を確認する。 ○練習問題に取り組む。</p>	<p>① 第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。</p>

<p>常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むことができる。また、配当表に示される漢字や文章の中で使うことができる。(知・技)</p>			②	
			③	学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
<p>単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解することができる。(知・技)</p>	<p>文法への扉2 走る。走らない。走ろうよ。</p>	<p>○P187の導入や解説、P238文法2「①活用」を読み、「活用」の意味や用語について理解する。 ○P239文法2「②用言の活用 1 動詞の活用」を読み、動詞の活用について理解する。 ○P241文法2「②用言の活用 2 形容詞・形容動詞の活用」を読み、形容詞・形容動詞の活用について理解する。</p>	①	単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解している。
			②	
			③	
<p>抽象的な概念や語句の量を増やすことや文章の中で使うこと、語感を磨き豊かにすることができる。(知・技)</p>	<p>季節のしおり 冬</p>	<p>○冬の行事・暦に関わる言葉や、冬の情景を詠んだ詩歌を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。</p>	①	抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。
			②	
			③	
<p>抽象的な概念や語句の量を増やすこと、類義語や対義語、同音異義語や多義的な意味を持つ語句や文章の中で使うこと、語感を磨き豊かにすることができる。(知・技)</p>	<p>走れメロス [書く] 作品の魅力をまとめ、語り合おう</p>	<p>○全文を通読する。 ○人物・時・場所・出来事などに着目して幾つかの場面に分け、作品の構成を確認する。 ○場面の展開に即して人物像を読み取る。 ○自分が感じた作品の魅力を文章にまとめ、それを基に、作品の魅力をグループで語り合う。</p>	①	抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。
			②	「読むこと」において、登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。
			③	粘り強く登場人物の言動の意味などについて考え、学習の見通しをもって作品の魅力を文章にまとめようとしている。

第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技)	漢字に親しもう6	○新出漢字を確認する。 ○練習問題に取り組む。	①	第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。
			②	
			③	
単語の活用、助詞などの成分や文の構成について理解する。(知・技)	文法への扉3 一字違いで大違い	○P215の導入や解説を読み、付属語の働きについて考える。 ○P244文法3「①付属語」を読み、付属語の種類について理解する。 ○P244文法3「②付属語の種類1助動詞」を読み、助動詞の働きについて理解する。 ○P246文法3「②付属語の種類2助詞」を読み、助詞の種類と働きについて理解する。	①	助詞・助動詞の働きや種類について理解し、文や文章で使われている助詞や助動詞の意味・用法を判別している。
			②	
			③	
話し言葉と書き言葉の特徴について理解することができる。(知・技)	言葉3 話し言葉と書き言葉	○音声の特徴から話し言葉を捉え、文字の特徴から書き言葉を捉える。	①	話し言葉と書き言葉の特徴について理解している。
			②	
			③	
第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技)	漢字3 送り仮名	○教材文を読み、送り仮名の付け方の主な原則と例外について理解する。 ○P223の練習問題に取り組む。	①	第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。
			②	
			③	

<p>抽象的な概念を表す語句の量を増すと文章の中で使うことで、語感を磨き語彙にすることができる。(知・技)</p>	<p>木</p>	<p>○詩を通読する。 ○詩の中の印象に残った表現を挙げ、どんな印象を受けたかを話し合う。 ○表現の意味を考える。 ○作者のものの見方について語り合う。</p>	<p>① 抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ② 「読むこと」において、詩を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。 ③ 進んで詩を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、学習課題に沿って作者のものの見方について話し合おうとしている。</p>
<p>言葉がもつ価値を認識し、生活に役立て、我が国の言語文化を大切に考え、伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p>	<p>学習を振り返ろう</p>	<p>○P256 の小説を読み、学習課題に取り組む。 ○P257 の提案を聞き、学習課題に取り組む。 ○P258 のメールの下書きを読み、学習課題に取り組む。</p>	<p>① 言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づいている。 ② 「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えている。 ③ 進んで登場人物の設定のしかたや根拠の適切さを考え、今までの学習を生かして、学習課題に取り組もうとしている。</p>

社会科 第2学年 シラバス

1 学習のねらい

- 広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察する。
- わが国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培う。
- 国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の形成者として必要な公民的な資質の基礎を養う。

2 学習のアドバイス

- ①わが国や世界の地形、気候、産業や人々の生活や文化に関心を持ち、すすんで学習しよう。
- ②わが国や世界の歴史に関心を持ち、現代に生きるわたしたちとの関わりを理解しよう。
- ③地理的事象、歴史的事象の学び方を身につけよう。
- ④地図や資料などをすすんで活用しよう。

3 身につけさせたい力

- ★話し合いの活動を取り入れ、説明したり、発表の力をつけます。
- ★感想や振り返りの場を取り入れ、文章や図などで表現する力をつけます。
- ★身の回りの社会的事象や、歴史について探究する力をつけます。

4 評価の規準と評価の方法

	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
評価規準	・わが国や世界の地理的事象や歴史的事象の課題や特色を理解し、その知識を理解している。	・地理的事象や歴史的事象から課題を見だし、その特色、意義、関連などを多面的・多角的に考察し、公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	・日本や世界の地域に関わる諸事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追求、解決しようとしている。
評価の方法	定期テスト、小テスト、レポートなどで評価します。	定期テスト、ノート、授業中の発言、レポートなどで評価します。	毎授業の振り返りシート、単元ごとのまとめ、授業中の挙手などで評価します。

5 授業計画

単元名	学習内容	評価の観点
【地理的分野】 2章 世界から見た日本の姿	①世界から見た日本の自然環境 ②世界から見た日本の人口 ③世界から見た日本の資源・エネルギーと産業 ④世界と日本の結び付き	① わが国の国土の特色を理解し、地図帳、映像資料から特色を読みとり、まとめることができる。
		② わが国の国土の特色について多面的・多角的な思考や判断を行うことができる。
		③ 日本の姿について、より良い社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追求しようとしている。
3章 日本の諸地域	①九州地方 ②中国・四国地方 ③近畿地方 ④中部地方 ⑤関東地方 ⑥東北地方 ⑦北海道地方	① 各地方の特色を理解し、特色を表す様々な資料を読み取り、まとめることができる。
		② 各地方の特色について、自分たちの生活と関連づけて、多面的・多角的な思考や判断を行うことができる。
		③ 日本の諸地域について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追求しようとしている。
4章 身近な地域の調査		① 身近な地域の特色や課題を、地域の自然環境や他地域との結びつき、人々の営みとの関りから理解し、それらの知識を身に着けている。
		② 縮尺の大きな地図やさまざまな写真を活用し、土地利用、地形、地域変化などを読み取ることができる。
		③ 地域調査を踏まえ、地域の在り方について、より良い社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追求、解決しようとしている。
【歴史的分野】 第4章 近世の日本	①ヨーロッパ人との出会いと全国統一 ②江戸幕府の成立と対外政策 ③産業の発達と幕府政治の動き	① 近世の日本の政治、人々の生活や文化、産業について関心を持ち、日本の特色を理解している。
		② 近世の日本の政治、人々の生活や文化、産業について、事象を相互に関連付けるなどして多面的・多角的に考えて表現している。
		③ 近世の日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及しようとしている。
第5章 開国と近代日本の歩み	①欧米における近代化の進展 ②欧米の進出と日本の開国 ③明治維新 ④日清・日露戦争と近代産業	① 近代日本が形成される過程に関心高め、日本の特色を理解している。
		② 近代の日本の政治、人々の生活や文化、産業について、事象を相互に関連付けるなどして多面的・多角的に考えて表現している。
		③ 近代の日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及しようとしている。

数学科 第2学年 シラバス

1 教科の目標

基礎的・基本的な知識及び技能を習得し、物事を数学的に考える力を身に付けること。
また、数学が生活や問題解決に役立つことを知り、数学のよさを理解すること。

2 学習のアドバイス

* 2年生で学ぶ内容は、3年生の土台となります。
土台をしっかり固めるためには…

①復習を怠らないこと。
②間違えた問題は正答できるまで繰り返しやり直すこと。
③わからない問題は先生や友達に聞いて解決すること。
④1年生の学習内容と関連付けて勉強しよう。

3 身に付けさせたい力

- ★自分の考えを書く力
- ・ノートを取り方の工夫
- ★自分の考えを説明する力
- ・グループに分かれ、説明しあう機会を増やす。
- ・教え合う活動を取り入れる。
- ★他者の説明を聞く力
- ・授業規律を整える。
- ・他者の意見をメモする習慣をつける。
- ★計算力
- ・小テストを反復行う。

4 評価の観点、評価規準と評価方法

	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
評価規準	文字を用いた式と連立二元一次方程式，平面図形と数学的な推論，一次関数，データの分布と確率などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けようとする。	文字を用いて数量の関係や法則などを考察する力，数学的な推論の過程に着目し，図形の性質や関係を論理的に考察し表現する力，関数関係に着目し，その特徴を表，式，グラフを相互に関連付けて考察する力，複数の集団のデータの分布に着目し，その傾向を比較して読み取り批判的に考察して判断したり，不確定な事象の起こりやすさについて考察したりする力を養う。	数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え，数学を生活や学習に生かそうとする態度，問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度，多様な考えを認め，よりよく問題解決しようとする態度を養う。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験 ・小テスト ・授業中の問題への取り組み等 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験 ・小テスト ・授業中の問題への取り組み等 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度，挙手，忘れ物等 ・小テスト ・提出物

5 授業計画

	単元目標	学習内容	評価の観点			
式の計算	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な整式の加法と減法及び単項式の乗法と除法の計算をすること。 ・具体的な事象の中の数量の関係を文字を用いた式で表したり、式の意味を読み取ったりすること。 ・文字を用いた式で数量及び数量の関係を捉え説明できることを理解すること。 ・目的に応じて、簡単な等式を変形すること。 ・具体的な数の計算や既に学習した計算の方法と関連づけて、整式の加法と減法及び単項式の乗法と除法の計算の方法を考察し表現すること。 ・文字を用いた式を具体的な場面で活用すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○式の加法，減法 ○いろいろな多項式の計算 ○単項式の乗法，除法 ○文字式の利用 	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡単な整式の加法と減法及び単項式の乗法と除法の計算をすることができる。 ・具体的な事象の中の数量の関係を文字を用いた式で表したり、式の意味を読み取ったりすることができる。 ・文字を用いた式で数量及び数量の関係を捉え説明できることを理解することができる。 ・目的に応じて、簡単な等式を変形することができる。 <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な数の計算や既に学習した計算の方法と関連づけて、整式の加法と減法及び単項式の乗法と除法の計算の方法を考察し表現することができる。 ・文字を用いた式を具体的な場面で活用することができる。 <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文字を用いた式のおよさを実感して粘り強く考え、文字を用いた式について学んだことを生活や学習にいかそうとしたり、文字を用いた式を活用した問題解決の過程をふり返って評価・改善しようとしたりすることができる。 			
			連立方程式	<ul style="list-style-type: none"> ・二元一次方程式とその解の意味を理解すること。 ・連立方程式の必要性和意味及びその解の意味を理解すること。 ・簡単な連立方程式を解くこと。 ・一元一次方程式と関連づけて、連立方程式を解く方法を考察し表現すること。 ・連立方程式を具体的な場面で活用すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○連立方程式とその解 ○連立方程式の解き方 ○連立方程式の利用 	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二元一次方程式とその解の意味を理解することができる。 ・連立方程式の必要性和意味及びその解の意味を理解することができる。 ・簡単な連立方程式を解くことができる。 <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一元一次方程式と関連づけて、連立方程式を解く方法を考察し表現することができる。 ・連立方程式を具体的な場面で活用することができる。 <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連立方程式のおよさを実感して粘り強く考え、連立方程式について学んだことを生活や学習にいかそうとしたり、連立方程式を活用した問題解決の過程をふり返って評価・改善しようとしたりすることができる。
						一次関数

	<ul style="list-style-type: none"> とみること。 一次関数として捉えられる2つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連づけて考察し表現すること。 一次関数を用いて具体的な事象を捉え考察し表現すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○方程式とグラフ ○連立方程式とグラフ ○一次関数の利用 	<p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> 一次関数として捉えられる2つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連づけて考察し表現することができる。 一次関数を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することができる。 <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> 一次関数のよさを実感して粘り強く考え、一次関数について学んだことを生活や学習にいかそうとしたり、一次関数を活用した問題解決の過程をふり返って評価・改善しようとしたりすることができる。
平行と合同	<ul style="list-style-type: none"> 平行線や角の性質を理解すること。 多角形の角についての性質を見いだすこと。 平面図形の合同の意味及び三角形の合同条件について理解すること。 証明の必要性和意味及びその方法について理解すること。 基本的な平面図形の性質を見だし、平行線や角の性質をもとにしてそれらを確かめ説明すること。 三角形の合同条件などをもとにして図形の性質を論理的に確かめること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○角と平行線 ○多角形の角 ○三角形の合同 ○証明とそのしくみ ○証明の進め方 	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> 平行線や角の性質を理解することができる。 多角形の角についての性質を見いだすことができる。 平面図形の合同の意味及び三角形の合同条件について理解することができる。 証明の必要性和意味及びその方法について理解することができる。 <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的な平面図形の性質を見だし、平行線や角の性質をもとにしてそれらを確かめ説明することができる。 三角形の合同条件などをもとにして図形の性質を論理的に確かめることができる。 <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> 図形の性質などを証明することのよさを実感して粘り強く考え、平面図形の性質について学んだことを生活や学習にいかそうとしたり、平面図形の性質を活用した問題解決の過程をふり返って評価・改善しようとしたりすることができる。
図形の性質と証明	<ul style="list-style-type: none"> 直角三角形の合同条件について理解すること。 証明の必要性和意味及びその方法について理解すること。 三角形の合同条件などを基にして三角形や平行四辺形の基本的な性質を論理的に確かめたり、証明を読んで新たな性質を見いだしたりすること。 三角形や平行四辺形の基本的な性質などを具体的な場面で活用すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○二等辺三角形 ○直角三角形の合同 ○平行四辺形の性質 ○平行四辺形になるための条件 ○いろいろな四角形 ○平行線と面積 ○四角形の性質の利用 	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> 直角三角形の合同条件について理解することができる。 証明の必要性和意味及びその方法について理解することができる。 <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> 三角形の合同条件などをもとにして三角形や平行四辺形の基本的な性質を論理的に確かめたり、証明を読んで新たな性質を見いだしたりすることができる。 三角形や平行四辺形の基本的な性質などを具体的な場面で活用することができる。 <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> 図形の性質などを証明することのよさを実感して粘り強く考え、三角形や平行四辺形の性質について学んだことを生活や学習にいかそうとしたり、三角形や平行四辺形の性質を活用した問題解決の過程をふり返って評価・改善しようとしたりすることができる。

<p>場合の数と確率</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多数回の試行によって得られる確率と関連づけて、場合の数をもとにして得られる確率の必要性和意味を理解すること。 ・簡単な場合について確率を求めること。 ・同様に確からしいことに着目し、場合の数をもとにして得られる確率の求め方を考察し表現すること。 ・確率を用いて不確定な事象を捉え考察し表現すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○確率の求め方 ○いろいろな確率 ○確率の利用 	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多数回の試行によって得られる確率と関連づけて、場合の数をもとにして得られる確率の必要性和意味を理解することができる。 ・簡単な場合について確率を求めることができる。
<p>箱ひげ図とデータの活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・箱ひげ図や四分位範囲の必要性和意味を理解すること。 ・コンピュータなどの情報手段を用いるなどしてデータを整理し、箱ひげ図で表すこと。 ・箱ひげ図や四分位範囲を用いてデータの分布の傾向を比較して読み取り、批判的に考察し判断すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○箱ひげ図 ○データを活用して、問題を解決しよう 	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・箱ひげ図や四分位範囲の必要性和意味を理解することができる。 ・コンピュータなどの情報手段を用いるなどしてデータを整理し、箱ひげ図で表すことができる。
			<p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同様に確からしいことに着目し、場合の数をもとにして得られる確率の求め方を考察し表現することができる。 ・確率を用いて不確定な事象を捉え考察し表現することができる。
			<p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場合の数をもとにして得られる確率のよさを実感して粘り強く考え、確率について学んだことを生活や学習にいかそうとしたり、確率を活用した問題解決の過程をふり返って評価・改善しようとしたりすることができる。
			<p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・箱ひげ図や四分位範囲のよさを実感して粘り強く考え、箱ひげ図や四分位範囲について学んだことを生活や学習に生かそうとしたり、箱ひげ図や四分位範囲を活用した問題解決の過程をふり返って評価・改善しようとしたり、多様な考えを認め、よりよく問題解決しようとしたりすることができる。

理科 第2学年 シラバス

1 教科の目標

自然の事物・現象に進んでかかわり、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力の基礎と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。

2 学習のアドバイス

- ① 身近な自然事象と学習内容を重ねて学習する。
- ② 実験において基礎的な実験技術を身につける。
- ③ 正しく安全に観察・実験をする。
- ④ ワークで実力をためす。
- ⑤ 実験や観察から規則性を見つける。

3 身に付けさせたい力

- ① 自然の事物・現象に進んで関わろうとする意欲
- ② 科学的に探求する能力・科学的な見方や考え方
- ③ 観察・実験の技能
- ④ 自然の事物・現象についての理解力
- ★ 班活動を取り入れる。役割分担を行う。班でまとめたことを書かせる活動を行う。
- ★ 単元の最初にブレインストーミング(日常生活や他の単元との関連付け)をする。

4 評価の観点、評価規準と評価方法

	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
評価規準	正しく安全に観察実験する。 実験器具の正しく操作する。 理科の用語の意味、基本的な知識を適切に理解する。	実験や観察から規則性を見つける。考える。 実験の結果をまとめて発表する。	理科の学習に興味を持ち意欲的に取り組むことができる。 積極的に発言する
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ テスト ・ 小テスト ・ 授業中のノートのまとめ方 ・ スケッチ、グラフ ・ パフォーマンステスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・ テスト ・ 小テスト ・ 授業中の考察、観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業中の挙手発言 ・ ノート、問題集の提出物 ・ 忘れ物

5 授業計画

指導目標	単元名	学習内容	評価の観点
(1) 自然現象を巨視的に把握して理解させ、これらの自然事象に対する科学的な見方や考え方を養う。 (2) 正しい器具操作による観察・実験を行い、課題を解決する方法を習得させる。	1 化学変化と原子・分子	(1)物質の成り立ち (2)いろいろな化学変化 (3)化学変化と熱の出入り (4)化学変化と物質の質量	①化学変化を原子や分子のモデルと関連付けながら、物質の成り立ち、化学変化、化学変化と物質の質量を理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。 ②化学変化について見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、原子や分子と関連付けてその結果を分析して解釈し、化学変化における物質の変化やその量的な関係を見いだして表現している。 ③化学変化と原子・分子に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。
	2 生物の体のつくりとはたらき	(1)細胞のつくる細胞 (2)植物の体のつくりとはたらき (3)動物の体のつくりとはたらき	①生物の体のつくりと働きとの関係に着目しながら、生物と細胞、植物の体のつくりと働き、動物の体のつくりと働きを理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。 ②身近な植物や動物の体のつくりと働きについて、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、生物の体のつくりと働きについての規則性や関係性を見出している。 ③生物の体のつくりと働きに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。
	3 電流とその利用	(1)電流と回路 (2)電流と磁界 (3)電流の正体	①電流、磁界に関する事物・現象を日常生活や社会と関連付けながら、電流、電流と磁界を理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。 ②電流、磁界に関する現象について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、電流と電圧、電流の働き、静電気、電流と磁界の規則性や関係性を見いだして表現している。 ③電流とその利用に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。

4 気象のしくみと 天気の変化	(1)気象観測 (2)気圧と風 (3)天気の変化 (4)日本の気象	①気象要素と天気の変化との関係に着目しながら、気象観測、天気の変化、日本の気象、自然の恵みと気象災害を理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。
		②気象とその変化について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、天気の変化や日本の気象についての規則性や関係性を見いだして表現している。
		③気象とその変化に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。

音楽科 シラバス

1 学習のねらい

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を目指す。

2 学習のアドバイス

- ・心から音楽を楽しむこと。まずは、楽しもうとする姿勢が大切である。
- ・仲間と協力し合い、美しい音楽を作っていくこと。
- ・歌は体が楽器です。正しい姿勢や発声など気を付けること。
- ・上手になりたいという向上心を持つこと。
- ・どうしたら上手くなるのか考え行動する研究心を持つこと。
- ・楽譜を読める、書けるように学習に取り組むこと。

3 身に付けさせたい力

- ・美しいものを聴いて美しいと感じる感性。
- ・楽曲を聴いて理論的に説明できる力。
- ・作曲者の考えを楽譜から読み取る能力。
- ・正しい奏法を身に着的けるとともに、音楽で想いを表現する能力。
- ・仲間と協働しながら、音楽表現を生み出していく力。
- ・たくさんの感動を通して、心を育んでいく。

4 評価の観点・評価方法

評価の観点	評価基準	方法例
① 知識及び技能	音楽を形づくっている要素を知覚し学習をすることを通して、曲想や音楽の構造、歌詞の内容などの理解を深め、基礎的な技能（歌唱・器楽：発声や発音、体の使い方など 創作：音の選択や組み合わせ方など）が身についている。	○観察 ○ワークシート ○実技試験 ○小テスト
② 思考・判断・表現	表現の活動を通して、音楽を形づくっている要素を生かしながら、表現を創意工夫することができている。また、鑑賞の活動を通して、曲や演奏に対する評価、社会における意味や役割、表現の共通性や固有性、などを味わって聴くことができる。	○観察 ○ワークシート ○実技試験 ○小テスト
③ 主体的に学習に取り組む態度	主体的に学習に取り組み、自分の課題を見つけ、それを乗り越えるために努力しようとしているか。他者と教え合い活動などを通して、協力しながら学習に取り組むことができる。音楽を自ら楽しむ心を忘れず、音楽に親しんでいこうとする態度。	○観察 ○ワークシート ○実技試験 ○小テスト

○第2学年

	教材名	学習目標	評価の観点
歌唱	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夢の世界を ・ 夏の思い出 (共通教材) ・ 荒城の月 (共通教材) ・ サンタルチア ・ きみにとどけよう ・ 合唱コンクール ・ 三送会 ・ 卒業式 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 拍にのって、響きのある声で合唱しよう ・ パートの役割を理解して歌おう ・ 情景を思い浮かべながら、言葉を大切に歌おう ・ 曲想を生かして表情豊かに歌おう ・ みんなと歌う喜びを感じよう ・ 思いを込めて明るい声で合唱しよう ・ 曲の構成や曲想の変化を生かして、歌唱表現を工夫しよう 	① 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解している 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の抑揚、体の使い方、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付け、歌唱で表現している
			② 音色、テクスチャ、強弱、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて思いや意図をもっている
			③ 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習に取り組もうとしている
器楽	<ul style="list-style-type: none"> ・ 弦楽器 ・ カントリーロード ・ 箏曲「さくら」 ・ リズムゲーム 	<ul style="list-style-type: none"> ・ スムーズな指使いや響きのある音色を身に着けよう ・ 曲想を感じ取って、表情豊かに演奏しよう 	① 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解している 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の音などを聴きながら他者と合わせて演奏する技能を身に付け、器楽で表現している
			② 音色、テクスチャ、強弱、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている
			③ 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習に取り組もうとしている
創作	<ul style="list-style-type: none"> ・ マイメロディー ・ レッツクリエイト 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉の抑揚を生かして旋律をつくろう ・ 構成を工夫して、言葉によるリズムアンサンブルをつくろう 	① 音のつながり方や特徴について、表したいイメージと関わらせて理解している 創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組み合わせなどの技能を身に付け、創作で表している
			② 音色、テクスチャ、強弱、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている
			③ 音のつながり方の特徴に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習に取り組もうとしている
鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> ・ フーガ ト短調 ・ 交響曲第5番ハ短調 ・ 歌舞伎「勸進帳」 ・ 「アイーダ」から 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 旋律が重なり合っていくおもしろさを味わおう ・ 曲の構成に注目しながら、曲想の変化を味わおう ・ オペラに親しみ、その音楽を味わおう ・ 歌舞伎に親しみ、その音楽を味わおう 	① 曲想と音楽の構造との関わりについて理解している
			② 音色、テクスチャ、強弱、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、生活や社会における音楽の意味や役割、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている
			③ 音楽活動を楽しみながら、関心をもって主体的・協働的に鑑賞の学習に取り組もうとしている

美術科 シラバス(学習案内)

1. 学習のねらい

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

1学年

- (1) 楽しく美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を育てる。
- (2) 対象を見つめ感じ取る力や想像力を高め、豊かに発想し構想する能力や形や色彩などによる表現の技能を身に付け、意図に応じて創意工夫し美しく表現する能力を育てる。
- (3) 自然の造形や美術作品などについての基礎的な理解や見方を広げ、美術文化に対する関心を高め、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を育てる。

2. 3学年

- (1) 主体的に美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を高める。
- (2) 対象を深く見つめ感じ取る力や想像力を一層高め、独創的・総合的な見方や考え方を培い、豊かに発想し構想する能力や自分の表現方法を創意工夫し、創造的に表現する能力を伸ばす。
- (3) 自然の造形、美術作品や文化遺産などについての理解や見方を深め、心豊かに生きることと美術とのかかわりに関心をもち、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を高める。

2. 学習のアドバイスなど

美術は日常生活と深く結びついています。普段の生活経験の中で得る知識や感じ方の積み重ねで「美しさやよさの価値観」が醸成されてきます。ぜひ普段の生活のなかで、いろいろなことを自分で考え、自分で表現したり、答えを導き出すなどの習慣を身につけましょう。また授業で与えられた課題には主体的に関わり、最後までしっかり仕上げていくことが大切です。達成感が味わえるように集中して制作に励んで欲しいと思います。

3. 身につけさせたい力

- ★・美術の表現の学習を通して、日常生活との関わりを考え、主体的に課題に関わる知識や技能を身に付けようとする態度を養う。
- ★・美術の鑑賞の学習を通して、日本や世界の美術文化および他の文化に対する感念の価値観を育むとともに心豊かに生活する態度を養う。

4. 評価基準と方法

評価項目	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・用具の安全かつ適切に扱い、表現意図に応じた材料や用具の基礎的スキルを生かして表現する。 ・美しさやよさなどを総合的に考えながら自分らしく創造的な工夫をして表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然や身近なものを新鮮な見方や感覚で深く観察し、形や色彩の特徴、よさや美しさなどを感じ取り、想像力を働かせて豊かに主題を発想する。 ・多様なものの見方をもって発想し、心豊かに作品を創意工夫しようとする。 ・自他の作品のよさや美しさを感じ、言語活動も含めて表現する。 	<p>多様な美術文化に関心をもち、自らの感性を働かせ、対象や表現のよさ、美しさを感じ取りながら意欲的に学習に取り組む。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・用具等の適切な扱い。 ・表現意図に応じた基礎的な表現方法など 	<ul style="list-style-type: none"> ・形や色の特徴やよさを生かした適切な表現内容。 ・豊かな発想に基づいた表現方法や独創的な工夫など。 ・鑑賞レポートや発言等で作品のメッセージ性などを感じ取り適切な表現をしている。 	<p>プリントや作品制作活動、鑑賞の記録などの学習活動の意欲的で主体的な取り組みの様子。</p>

美術科 2学年 年間授業案内

学期	題材名	目的	具体的作品像・イメージなど	主な素材	道具・準備・取りくみ備考
1	構想画を描く	いろいろな構想画を鑑賞して、自分の気持ちを表現する楽しさを感じる。	具象的な表現と抽象的な表現など、さまざまな表現方法があることを知る。		参考資料、プリント
		自分が表したい気持ちをいかに表現するか工夫をして制作計画をたてる。	効果的な画面構成の作り方を考えて、楽しく表現する。	アートグラス	アートグラス、ニードル、絵の具
夏季休業課題	郷土を見つめて	「わたしの郷土」をテーマに水彩画を描く。 選抜作品は「郷土を描く児童生徒美術展」に出品	身近な風景、広がりのある風景。行事の風景など。またその他、「郷土」をテーマとしたデザイン平面作品なども可		指定用紙を1学期終了時に配布します。水彩絵の具等で着彩して2学期に提出して下さい。
2	デザイン行動(鑑賞)	デザインの基礎的なとらえ方、自らの生活とデザインとの関わりを考える。	ビデオ「デザイン行動」の鑑賞を通して		ビデオ「デザイン行動」を鑑賞して、デザインの意味や生活との関わり合いを理解しよう。
	ウエルカムボードの制作	玄関に飾るウエルカムボードを板材で制作するために、用途に適したデザインを考える。	デザインを考えて、制作計画を立てる。		プリント、レタリング事典、参考資料
		彫刻刀の正しい使い方、表現方法を学習する。	文字の浮彫のしかたを学び、安全にしていねいに制作する。	板材	板材、彫刻刀、紙やすり
		効果的な配色を考えて着色。ニスを塗って美しく仕上げる。	飾る場所に合わせた配色を考える。		絵の具、ニス
冬季休業課題	ウエルカムボードを設置したところの写真を撮ってくる	自分がつくった作品を実際に設置してみても自己採点をし、友達同士で見せ合って鑑賞する。	撮ってきた写真を見せ合って感想を交換する。		写真、レポート用紙
3	一点透視図法を使った部屋のデザイン	一点透視図法を練習して体得する。	プリントを使って書き方の練習をする。		プリント、定規
		一点透視図法を使って理想の部屋のデザインをする。	奥行きのある表現方法の仕方を学んで、表現の楽しさを知る。	イラストボード	イラストボード、色鉛筆、定規、ペン

保健体育科 シラバス

- 1 学習のねらい 体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成する。
 2 学習のアドバイス

3 身に付けさせたい力

- ① 学習規律を守り、進んで楽しく活動しよう。② 意欲的に課題解決に取り組もう。
 ③ 仲間と協力して取り組もう。④ 自己やグループの課題に合った練習を選択しよう。
 ⑤ 運動の特性を理解し、楽しさや喜びが味わえるようにしよう。
 ⑥ 安全な場所や安全の確保をしながら運動に取り組もう。
 ⑦ 自他の心身の健康や安全に留意しよう。⑧ 健康や安全に関する知識を身に付けよう。

- ① 運動の特性を理解し、運動の楽しさ、喜びを味わうことができるようになる。
 ② 目標設定や課題解決に自ら努力するとともに、お互いに協力し合える態度が見につく。
 ③ 生涯を通じて、運動を愛好できるようになる。
- 「賢く・美しく・心身ともに逞しい芝中生」

4 評価基準と評価方法

		① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
体育分野	評価基準	<p>〈第1学年及び第2学年〉 各運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、伝統的な考え方、各領域に関連して高まる体力、健康・安全の留意点についての具体的な方法及び運動やスポーツの多様性、運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方についての考え方を理解しているとともに、各領域の運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。</p> <p>〈第3学年〉 選択した運動の技の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法及び文化としてのスポーツの意義についての考え方を理解しているとともに、選択した領域の運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。</p>	<p>〈第1学年及び第2学年〉 運動を豊かに実践するための自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。</p> <p>〈第3学年〉 生涯にわたって運動を豊かに実践するための自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。</p>	<p>〈第1学年及び第2学年〉 運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、公正、協力、責任、共生などに対する意欲をもち、健康・安全に留意して、学習に積極的に取り組もうとしている。</p> <p>〈第3学年〉 運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、公正、協力、責任、共生などに対する意欲をもち、健康・安全を確保して、学習に主体的に取り組もうとしている。</p>
	評価方法	<p>知識 ・各運動、領域に関する理解度（定期テスト） ・知識を活用した運動への取り組み方（授業での観察）</p> <p>技能 ・各運動、領域の技能（実技テスト） ・練習状況（授業での観察）や学習カードを使用した記録や達成度</p>	<p>・各運動、領域の特性や目的に応じた取り組みの仕方、工夫</p> <p>・自己の課題を理解し、課題達成へ向けた運動（練習の選択場面など）への取り組み</p> <p>・自己が発見したことや気づいたことなどを仲間にも伝えたり、仲間と話し合うことができる表現力</p> <p>・健康、安全を意識、注意する態度</p> <p>※（授業での観察と、学習カードに書かれている内容）</p>	<p>・授業の集合（整列・号令・話を聞く態度）から解散まで、授業の流れに沿った意欲的な取り組み</p> <p>・用具の準備や後片付け、測定や声かけなど自己の役割を果たす積極性</p> <p>・仲間を認め、一人一人の違いに応じた課題や挑戦に対する、援助、補助などの主体的な取り組み</p> <p>※（授業での観察と、学習カードに書かれている内容）</p>
保健分野	評価基準	<p>健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達と心の健康、傷害の防止、健康と環境について、個人生活を中心として科学的に理解しているとともに、基本的な技能を身に付けている。</p>	<p>健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達と心の健康、傷害の防止、健康と環境について、個人生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して科学的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。</p>	<p>健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達と心の健康、傷害の防止、健康と環境について、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとしている。</p>
	評価方法	<p>知識 ・保健の知識、理解度（定期テスト）</p> <p>技能 ・実習への取り組み状況（授業での観察）</p>	<p>・生活における健康・安全についての課題を発見し、よりよい解決に向けて思考したり、適切な方法を選択・判断できるようになる。</p> <p>・自己が発見したことや気づいたことなどを仲間にも伝えたり、仲間と話し合うことができる表現力</p> <p>※（授業での観察と、保健ノートや学習カードに書かれている内容）</p>	<p>・心と体を一体として捉えた健康の保持増進への積極的な取り組み</p> <p>・生涯にわたって通じる健康・安全に対する課題解決に向けた自主的な学習の取り組み</p> <p>※（授業での観察と、保健ノートや学習カードに書かれている内容）</p>

第2学年

指導目標	単元名	学習内容	評価の観点
<p>(1)運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、運動を豊かに実践することができるようにするため、運動、体力の必要性について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)運動についての自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し、判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。</p> <p>(3)運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り込む、互いに協力する、自己の役割を果たす、一人一人の違いを認めようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をする態度を養う。</p>	体づくり運動	(1)体ほぐしの運動 (2)体の動き高める運動	① 体ほぐしの運動では、手軽な運動を行い、心と体の関係や心身の状態に気付き、仲間と積極的に関わり合うことができる。
			② 体の動きを高める運動では、ねらいに応じて、体の柔らかさや、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めるための運動を行うとともに、それらを組み合わせて運動の計画に取り組むことができる。
			③ 自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫できるとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
			④ 体づくり運動に積極的に取り組むとともに、仲間の学習を援助しようとする、一人一人の違いに応じた動きなどを認めようとする、健康・安全に気を配ることができる。
	器械運動	(1)マット運動 (2)跳び箱運動	① マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと、それらを組み合わせることができる。
			② 跳び箱運動では、切り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うことができる。
			③ 自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫できるとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができる。
			④ 器械運動に積極的に取り組むとともに、よい演技を認めようとする、仲間の学習を援助しようとする、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとする、健康・安全に気を配ることができる。
	陸上競技	(1)短距離走・リレー (2)長距離走 (3)走り幅跳び	① 短距離走・リレーでは、滑らかな動きで速く走ることやバトンの受け渡しでタイミングを合わせること、長距離走では、ペースを守り一定の距離を走ること、走り幅跳びでは、スピードに乗った助走から素早く踏み切り跳びることができる。
			② 自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫できるとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができる。
			③ 陸上競技に積極的に取り組むとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとする、分担した役割を果たそうとする、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとする、健康・安全に気を配ることができる。
	水泳	(1)クロール (2)平泳ぎ	① クロールでは、手と足の動き、呼吸のバランスをとり速く泳ぐことができる。平泳ぎでは、手と足の動き、呼吸のバランスをとり長く泳ぐことができる。
② 泳法などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫できるとともに、自分の考えたことを他者に伝えることができる。			
③ 水泳に積極的に取り組むとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとする、分担した役割を果たそうとする、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとする、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全に気を配ることができる。			
球技 I	(1)バレーボール (2)ソフトボール	① ネット型では、ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防ができる。ベースボール型では、基本的なバット操作と塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻防できる。	
		② 自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫できるとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。	
		③ 球技に積極的に取り組むとともに、フェアプレーを守ろうとする、作戦などの話し合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じたプレイを認めようとする、仲間の学習を援助しようとする、健康・安全に気を配ることができる。	

第2学年

指導目標	単元名	学習内容	評価の観点
<p>(1)運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、運動を豊かに実践することができるようにするため、運動、体力の必要性について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)運動についての自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し、判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。</p> <p>(3)運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たす、一人一人の違いを認めようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をする態度を養う。</p>	球技Ⅱ	(1)バスケットボール (2)サッカー	<p>① ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防を展開することができる。</p> <p>② 自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫できるとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。</p> <p>③ 球技に積極的に取り組むとともに、フェアプレーを守ろうとすること、作戦などの話し合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じたプレイを認めようとする、仲間の学習を援助しようとする、健康・安全に気を配ることができる。</p>
	武道	(1)柔道	<p>① 相手の動きに応じた基本動作や基本となる技を用いて、投げたり抑えたりするなどの簡易な攻防ができる。</p> <p>② 自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫できるとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができる。</p> <p>③ 武道に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとする、健康・安全に気を配ることができる。</p>
	ダンス	(1)フォークダンス (2)現代的なリズムのダンス (3)創作ダンス	<p>① フォークダンスでは日本民謡や外国の踊りの特徴を捉えること。現代的なリズムのダンスでは、リズムの特徴を捉え変化のある動きを組合せ、リズムに乗って全身で踊れること。創作ダンスでは、多様なテーマから表したいイメージを捉え、即興的に表現したり、変化のあるひとまとまりの表現にして踊ることができる。</p> <p>② 自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫できるとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。</p> <p>③ ダンスに積極的に取り組むとともに、仲間の学習を援助しようとする、交流し話し合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じた表現や役割を認めようとする、健康・安全に気を配ることができる。</p>
<p>(1)個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。</p>	体育理論	(1)運動やスポーツの多様性 (2)運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方	<p>① 学習内容(1)(2)について理解したことを言ったり、書きだしたりしている。</p> <p>② 学習内容(1)(2)について習得した知識を活用し、自己の課題のよりよい解決に向けて思考し判断するとともに、自己の意見を他者に伝えている。</p> <p>③ 学習活動に積極的に取り組もうとしている。</p>
	保健	(1)健康な生活と疾病の予防 (2)心身の機能の発達と心の健康 (3)傷害の防止	<p>① 学習内容(1)(2)(3)について理解したことを言ったり、書きだしたりしている。</p> <p>② 学習内容(1)(2)(3)について、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現している。</p> <p>③ 学習内容(1)(2)(3)について、課題の解決に向けた学習に自主的に取り組もうとしている。</p>

技術・家庭(技術分野) シラバス

1 教科の目標

技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を育てる。

2 学習のアドバイス

- ① 安全を意識しながら学習しよう。工具は便利な半面、使い方を間違えると危険な道具にもなります。
- ② 時間や道具を大切にしよう。集団で学習するマナーや決まりを学ぶことも大切な学習です。
- ③ 作業やそれに関わる知識と、自分の生活との接点を考えよう。

3 身に付けさせたい力

- ① 技術にかかわる基礎的・基本的な知識・技術。
 - ② 生活の中にある技術を適切に評価し活用する態度。
- ★ 3年間を見通し、確かな知識・技能を身につけることができる取り組み。
- ・ 作業を通して考える授業。
 - ・ 班活動の充実。

4 評価の観点、評価規準と評価方法

	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 技術に関わる用語の意味、基本的な知識を理解することができる。 ・ 安全かつ正確に作業することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想して、実践を評価・改善し、表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 技術の学習に興味を持ち主体的に粘り強く取り組むことができる。
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ テストの得点の内、知識・技能に関わる項目 ・ プリント ・ 製作品 ・ 技能テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・ テストの得点の内、思考・判断・表現に関わる項目 ・ プリント ・ 振り返りシート 	<ul style="list-style-type: none"> ・ テストの得点の内、主体的に学習に取り組む態度に関わる項目 ・ 授業中の活動状況 ・ プリント ・ 振り返りシート

5 授業計画 — 2 学年 —

指導目標	単元名	学習内容	評価の観点	
<ul style="list-style-type: none"> ・生物育成技術の良し悪しを判断し、利用できる。 	野菜の栽培技術をもとに食糧生産などに関わる問題を考えよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・生物に育成に適する条件 ・育成環境を管理する方法 ・目的とする生物の育成計画と栽培 	①	<ul style="list-style-type: none"> ・環境要因、病害虫、肥料、管理作業について理解している。 ・作物の状況に合った管理作業ができる。 ・食糧生産などについて深く考えることができる。
			②	<ul style="list-style-type: none"> ・生物育成に関する技術を適切に評価し活用している。 ・作物の育成方法を工夫している。
			③	<ul style="list-style-type: none"> ・生物育成に関する技術について主体的に粘り強く学習しようとする。
<ul style="list-style-type: none"> ・配線の修理や点検ができる。 ・持続可能な社会について詳しくなる。 	手回し発電ラジオの制作を通して持続可能な社会について考えよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・生活とエネルギー変換 ・自然界のエネルギー利用 ・エネルギーを光や熱に変える ・エネルギーを動力に変える ・交流電源を利用するには ・手回し発電ラジオの製作 ・エネルギー問題 	①	<ul style="list-style-type: none"> ・自然界のエネルギー利用について理解している。 ・エネルギー変換のしくみについて説明することができる。 ・エネルギーを光や熱、動力に変換する仕組みを理解している。 ・省エネ、環境問題等の現状を理解している。 ・安全に気を配り工具や工作機械を使うことができる。
			②	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な社会について深く考えることができる ・使用目的などを考え、製作品を設計できる。
			③	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー変換に関する技術について主体的に粘り強く学習しようとする。

技術・家庭(家庭分野) シラバス

1 教科の目標

生活の営みに係る見方・見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成する。

2 学習のアドバイス

- ① 自分の生活を振り返り、課題を見つける。
- ② 小学校での学習を再確認する。
- ③ 家族の一員であるという自覚をもち、家庭の中で自分ができるところを積極的に見つけていく。
- ④ 自分なりに工夫をすすめる。
- ⑤ 安全に気をつけて実習をする。

3 身に付けさせたい力

- ① 生活にかかわる基礎的・基本的な知識・技術。
- ② 生活の自立を目指し、家庭生活をよりよく豊かに創造しようとする能力と態度。
- ★ 3年間を見通し、確かな知識・技能を身につけることができる取り組み。
 - ・学習を振り返り生活をよりよくするための自己評価カード。
 - ・自ら考えて作業を進めることができる手順書。

4 評価の観点、評価規準と評価方法

	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
評価規準	家族・家庭の基本的な機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	これからの生活を展望し、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、改善策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、創造し、実践しようとしている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・テストの得点の内、知識・技能に関わる項目 ・確認テスト ・ワークシート ・製作品 ・技能テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・テストの得点の内、思考・判断 ・表現に関わる項目 ・ワークシート ・授業評価シート 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の活動状況 ・授業準備の状況 ・ワークシート ・確認テスト ・授業評価シート

5 授業計画（2学年）

指導目標	単元名	学習内容	評価の観点	
<p>(1) 中学生の食生活に関心を持ち、生活のなかで食事が果たす役割を理解し、健康によい食習慣を身につける。</p> <p>(2) 安全と衛生に留意し、基礎的な日常食の調理ができる。</p>	1 中学生の食生活と日常食の献立	(1) 中学生の食生活と栄養	①	生活の中で食事が果たす役割について理解している。
			①	健康によい食習慣について理解している。
			②	自分の食習慣について問題を見いだして課題を設定している。
			③	自分の食習慣について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。
		(2) 1日に必要な食品の種類と概量	①	中学生の1日に必要な食品の種類と概量について理解している。
		(3) 1日分の献立作成	①	1日分お献立を作成する方法について理解している。
	②	中学生の1日分の献立について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。		
	③	中学生の1日分の献立について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返ったりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。		
	(4) 食品の用途と選択	①	日常生活と関連付け、用途に応じた食品の選択について理解しているとともに、適切にできる。	
	2 日常食の献立	(1) 肉・魚を使った調理	①	肉・魚に適した加熱調理の仕方について理解しているとともに、基礎的な日常食の調理に適している。
②			肉・魚の調理について問題を見いだして課題設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	
③			肉・魚の調理について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返っ	

				て改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
		(2) 地域の食材と食文化	①	地域の食文化について理解しているとともに、地域の食材を用いた和食の調理が適切にできる。
			②	和食の調理について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。
			③	和食の調理について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
(3) 自分や家族の消費生活に関心をもち、消費者の基本的な権利と責任について理解することができる。	4 身近な消費生活と環境	(1) 中学生の消費生活	①	物資・サービスについて理解している。
		(2) 販売方法・支払方法	①	購入方法や支払い方法について理解している。
			①	消費者被害の背景とその対応について理解している。
			③	消費者被害の対応について、課題の解決に主体的に取り組み、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
		(3) 環境に配慮した消費生活	①	自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解している。
			②	自立した消費者としての環境に配慮した生活について課題を見いだして課題を設定し、考え工夫している。
			③	自立した消費者としての環境に配慮した生活について、課題の解決に主体的に取り組み、工夫し創造し、実践しようとしている。

英語科 第2学年 シラバス

1 教科の目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝えあったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成する。

2 学習のアドバイス

- ① 言葉の勉強はまず声に出す
- ② 他人の発表や発言をよく聞く
- ③ 習った表現で文を作って言えるようにする
- ④ 習った表現で文を作って書けるようにする
- ⑤ 習った表現を組み合わせて文を作れるようにする
- ⑥ 語彙や熟語を増やす
- ⑦ 予習・復習を徹底する
- ⑧ 教科書を暗記する
- ⑨ ワークや問題集で定着を確認する

3 身に付けさせたい力

- ① 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できるようにする。
- ② コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができるようにする。
- ③ 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

4 評価の観点、評価規準と評価方法

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	(知識)英語の特徴や決まりに関する事項を理解している。 (技能)実際のコミュニケーションにおいて日常的な話題や社会的な話題について ① 話された内容をとらえる技能 ② 書かれた文章を読んで内容をとらえる技能 ③ ④ ⑤ 事実や自分の考え、気持ちなどを簡単な語句を用いて伝えあう・話す・書く技能を身につけている。	コミュニケーションを行う目的や場面や状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について ① 文章を聞いて要点をとらえている。 ② 文章を読んで要点をとらえている。 ③ ④ ⑤ 事実や自分の考え、気持ちなど簡単な語句や文を用いて伝えている・話している・書いている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手、書き手、聞き手に配慮しながら、主体的に英語で話されていること、書かれていることを聞こう、読もうとしている。また主体的に英語を用いて伝えあおう、話そう、書こうとしている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期テストの成績 ・ 話すことに関わるパフォーマンステスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期テストの成績 ・ 話すことに関わるパフォーマンステスト ・ 課題英作文 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ノートやレポートにおける記述 ・ 授業中の発言 ・ 自己評価シート ・ 授業中の行動観察 ・ 小テスト

5 1年間の学習内容 ●2年生の目標:英語を用いてさまざまな場面で情報や考えなどを伝え合うことができる

単 元	学習の目標	学習内容(文法)	評価の観点と評価規準の例 (ア 知識・理解 イ 思考・判断・表現 ウ 主体的に学習に取り組む態度)
<p>Unit 1 Hajin's Diary 日記を書く/読む</p> <p>Unit 2 Basketball Tournament インタビューを聞く したことを尋ね合う</p> <p>Unit 3 Plans for the Summer メールを書く/読む</p> <p>Unit 4 Tour in New York City ガイドブックを読む/場所を紹介する</p> <p>Unit 5 Earthquake Drill 説明を聞き取る/話し合いをする</p> <p>Unit 6 Work Experience レポートを読む/書く</p> <p>Unit 7 Amazing Australia 観光案内を読む/書く</p> <p>Unit 8 Staging Musical 学級新聞を読む/好きな作品を紹介する。</p>	<p>・日記から、出来事や感想などを読み取ることができる。</p> <p>・日記に、出来事や感想などを書くことができる。</p> <p>・インタビューから、好きなことなどを聞き取ることができる。</p> <p>・好きなことやしたいことなどについて、たずね合うことができる。</p> <p>・メールから、予定や希望などを読み取ることができる。</p> <p>・予定や希望などを伝えるメールを書くことができる。</p> <p>・ガイドブックから、施設やできることなどを読み取ることができる。</p> <p>・施設やできることなどを言って場所を紹介することができる。</p> <p>・説明から、どんなものかを聞き取ることができる。</p> <p>・防災バッグに入れるものを決める、話し合いをすることができる。</p> <p>・レポートから、職場で体験したことや感想などを読み取ることができる。</p> <p>・職場で体験したことや感想などを伝えるレポートを書くことができる。</p> <p>・観光紹介の記事から、名所や特色などを読み取ることができる。</p> <p>・町の名所や名物などを伝える、紹介文を書くことができる。</p> <p>・学級新聞から、作品紹介のおおまかな内容を読み取ることができる。</p> <p>・作者やおおまかな内容などを言って、好きな作品を紹介することができる。</p>	<p>◇一般動詞の過去形</p> <p>◇接続詞 when</p> <p>◆動名詞</p> <p>◆不定詞</p> <p>◆be going to</p> <p>◆助動詞 will</p> <p>◆接続詞 if</p> <p>◆there is</p> <p>◆SVOO</p> <p>◆have to / do not have to</p> <p>◆助動詞 will</p> <p>◆助動詞 must</p> <p>◆助動詞 should</p> <p>◆不定詞</p> <p>◆接続詞 because</p> <p>◆比較級</p> <p>◆最上級</p> <p>◆受け身</p> <p>◆SVOC</p> <p>◆want 人 to</p>	<p>ア 日記に書かれた記事の概要を読み取ることができる。(R)</p> <p>イ when を用いて感想を発表することができる。(SP)</p> <p>ア. 動名詞の形・意味・用法に関する知識を身につけている。</p> <p>イ. 学んだ文法を活用したずねあることができる。(SI)</p> <p>ア. 未来を表す表現 be going to の文の形・意味・用法に関する知識を用いて概要をとらえることができる。(L)</p> <p>ウ. There is の使える使用場面について考え、発表することができる。(SP)</p> <p>ア. SVOO に当てはまる使用例を身に付けている。(W) (R)</p> <p>ア. 助動詞の形・意味・用法に関する知識を身につけている。</p> <p>イ. 本文を読んで、自分の考えをまとめることができる。(R) (W)</p> <p>ウ. 避難行動について自分の考えと相手の考えを比べることができる。(SI)</p> <p>ア. 不定詞の形・意味・用法を用いて概要をとらえることができる。(L)</p> <p>ア. 接続詞に注意して話し手の意向をとらえることができる。(R)</p> <p>ウ. 比較級、最上級を用いて身近にあるものを説明することができる。(SP)</p> <p>ア. 受け身の形・意味・用法に関する知識を身につけている。(L)</p> <p>ウ. SVOC、受け身を用いて学級新聞を作成することができる。(W)</p>